

雛人形

及川ふみ

きびしかつた寒さも峠を越してそろそろ雛の節句の準備にさしかゝる季節きたつてきた。時節柄材料に費用をあまりかけないでしかも一寸味のある雛人形をさいふのでころみに作つて見た雛人形について紹介して見る事にする。

新聞粘土の雛人形

新聞紙を幼児一人につき一枚位の割合で、毎日少しづつむしらせる。新聞をやぶく事は容易であつて、誰にでもすぐに澤山ちぎれる様に思はれるけれども、實際にして見るに少しの時間ではなかく澤山の新聞はむしれない。それでこの新聞むしりも幼児にさつては一つのお仕事にもなる。新聞一枚を八つ折りか、成は十六折位の大きさを一度にむしる分量が適當かもしれない。出来るだけ小さく同じ位の大きさにむしらせる。むしつた新聞紙はバケツに入れて水を入れておく。毎日棒で搗くことも一つのお仕事である。氣候のあたゝかい時には新聞紙も早くくちやぐちやになるけれども、寒い時には容易にほぐれないから金盥に入れてよく煮るさよい。一週間か十日位根氣よく幼児に先生

で棒で搗くに餘程新聞紙もほぐされて来る。

柔くほぐされた新聞紙を握つて水氣を出来るだけ取り去る。印刷の黒い汁もいくらか取りのぞかれて色が白くなる。一方ふのり十錢位のもの(新聞紙三十枚位につき)をよく煮出した汁に前の新聞だんごをよくかき交せる。こままで作ればあまは普通の粘土に取扱ひ方は同じである。

お雛様の形はどんな形でもよい。幼児の作れる形でよいが形の出来ないものゝために保姆さんは幼児に容易に出来る形の雛人形を豫め作つておいて見せるのも一つの方法である。

形は極めて簡単なものがよい。だるまの形のものもよいであらうし富士形のものもよいであらうし、饅頭形のものもよい。いづれにしても頭の部分だけ少しくぎりがつけばよい。小さいお茶碗や、盃などを型にしてつくるのも手軽な方法である。頭の部分だけに銀杏なぎの木の實を入れてつくるのも一方法も考へて造つてみた。

さて形が出来ると數日間日光によくあて、乾す。心まで

充分に乾すには相當の時日が必要であつて向をかへたり
ひつくりかへしたりしてよく乾す。大ききによつてもちが
ふのであるが小さいのであると大抵一週間も干せばよい。

彩色

はじめはきの色に塗るにしても全部胡粉で白くする。顔
は白にのこしておいて装束の部分にそれ／＼の彩色をする
があまり細かくいろ／＼の色にするのはむづかしいから顔
の外は全部装束の色を一色にぬりつぶして後に胡粉で簡單
に模様をかゝこよい。

胡粉でぬりつぶした顔には墨で眼鼻をかゝせる。

雛臺

雛臺も新しい紙を使ふ事をやめて古端書でつくる事に
する。端書を二枚縦横に重ねて四角に糊をつけて二枚重ね
る。この時全部に糊をつけるは紙が縮むおそれがあるから
四角だけに糊をつけておく。四角にはみ出してゐる部分だ
け折りかへして臺の高さをする。

臺にはクレヨンで色をつけてもよいが古い切手をはりま
せてつくつてみる。

古封筒の切手の貼つてある部分を幼児にきらせて、水に
したして暫くおく、適當の時にはがさせて干しておく。切
手に三錢四錢さいろ／＼の色があるから臺の周圍に適當に
貼らせる。

保育實習科生徒募集

(官報抜萃)

本年四月入學せしむべき保育實習科生徒を募集す
其要項左の如し

昭和十四年一月

東京女子高等師範學校

一、募集人員 凡二十四名

二、出願期限 二月一日より同二十八日まで

三、學 資 學資は總て自費とし 授業料年額金五
十五圓を徵集す

四、選抜試驗 入學志願者に對して學科試驗身體檢
査人物考査を行ふ

1、學科試驗 國語(解釋作文)、理科(植物)、圖畫
(自在畫)、音樂(唱歌)

(自在畫、音樂(唱歌))

2、期日 本年三月十三日、十四日の二日間

3、場所 東京女子高等師範學校

(附記)

出願の手續其他詳細の事項は之を記載
せる印刷物を用意せるに付其送附を希
望する者は參錢郵券を貼附し宛名を記
載せる封筒を添へ本校に請求すべし